

## 鉄骨・鉄板用金物

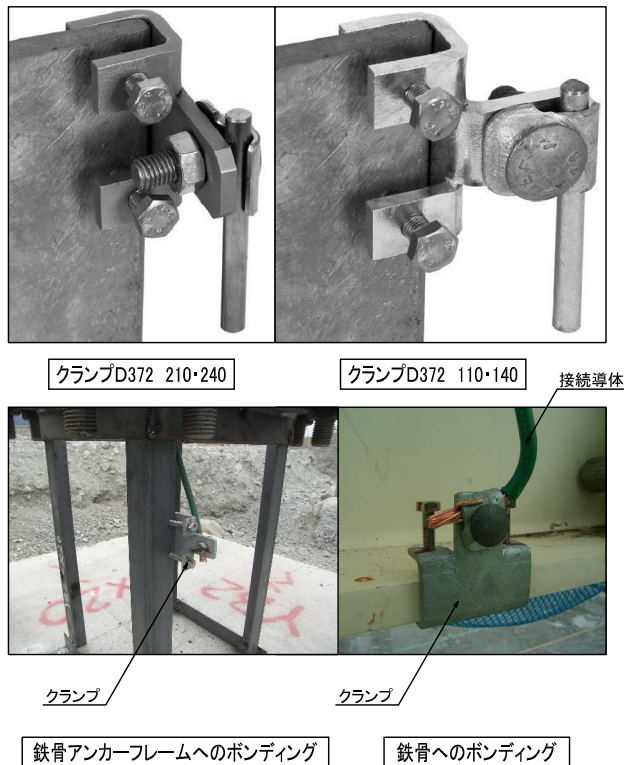
- 特徴 -

- ・適合する鉄骨に合わせて豊富なサイズをラインナップ。
- ・現場作業はボルト締め付けだけの簡単作業。
- ・電線は現場で長さを調整取り付けが可能。
- ・構造体鉄骨には、熱的応力を加えないため、構造体を痛める心配がない。
- ・雷電流通電性能(100kA又は50kA)を満足するよう設計・製造された製品です。

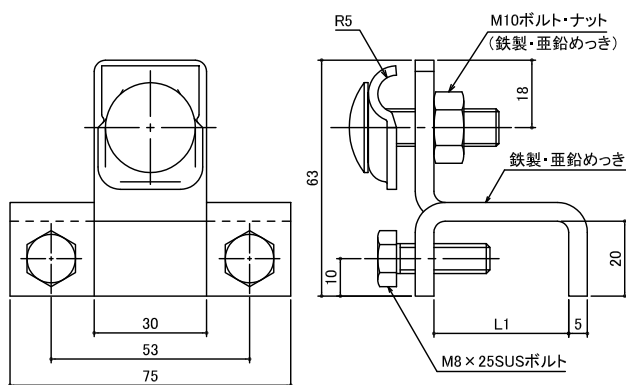
- 施工手順 -

- ボンディングする鉄骨を選定する(鉄骨厚さを確認する)  
鉄骨を受雷部導体として利用する場合は、50mm<sup>2</sup>、厚さ4mm(穴があいてもよい、下部に着火する可燃物がない場合は0.5mm)以上の鉄骨を選定する。  
鉄骨を引下げ導体として利用する場合は、50mm<sup>2</sup>以上の鉄骨を選定する。  
鉄骨を接地導体として利用する場合は、80mm<sup>2</sup>以上の鉄骨を選定する。
- 各々の鉄骨に適合する接地クランプを選択する。
- 接地クランプを鉄骨に付属のボルトにて締め付ける。
- 接続導体(鬼祭り線やIV線等)は、付属のボルトにて締め付ける。  
接続導体は、現場にて長さを調整取り付け下さい。  
  - 〃、銅(受雷部導体に利用する)の場合、38mm<sup>2</sup>以上の導体を使用する。
  - 〃、銅(引下げ導体に利用する)の場合、22mm<sup>2</sup>以上の導体を使用する。
  - 〃、鉄の場合、50mm<sup>2</sup>以上の導体を使用する。
  - 〃、アルミ(受雷部導体に利用する)の場合、70mm<sup>2</sup>以上の導体を使用する。
  - 〃、アルミ(引下げ導体に利用する)の場合、38mm<sup>2</sup>以上の導体を使用する。
 但し、コンクリート中ではアルミ導体は使用しないこと。
- 異種金属接触部分は、電蝕防止のため、絶縁防蝕塗料を塗布するか、コーキング又は、保護テープにて覆うとよい。  
但し、含水・浸水が考えられる場所以外では特に措置を施さなくてもよい。  
\*本金物は、JIS A 4201:2003の雷保護等電位ボンディングに対応した金物です。  
\*本金物は、JIS A 4201:1992による避雷設備用としては適用できません。

- 取付写真 -



## 鉄骨ボンディング用 接地クランプ Terminals

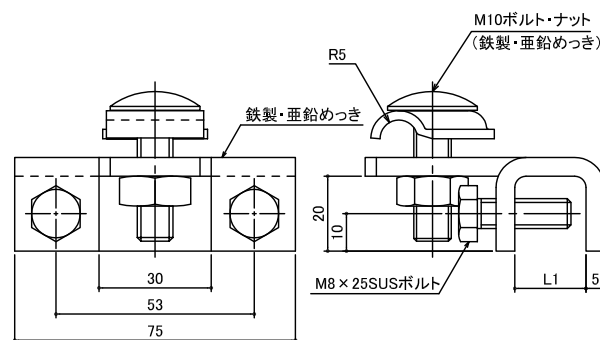


(単位mm)

型番/製番	適合導体	適合鉄骨厚さ	L1	材質
D372 110	6-10φ	5-18	19	鉄製・亜鉛めっき
D372 140	6-10φ	18-35	36	〃

\*適合導体サイズ:14mm<sup>2</sup> ~60mm<sup>2</sup>

## 鉄骨ボンディング用 接地クランプ Terminals



(単位mm)

型番/製番	適合導体	適合鉄骨厚さ	L1	材質
D372 210	6-10φ	5-18	19	鉄製・亜鉛めっき
D372 240	6-10φ	18-35	36	〃

\*適合導体サイズ:14mm<sup>2</sup> ~60mm<sup>2</sup>